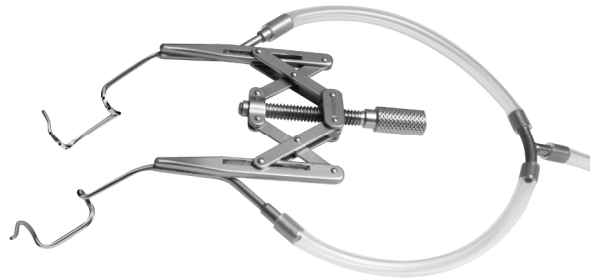


K1-5191 ダブル-X 平行吸引開瞼器、K-ワイヤーブレード

カティーナ ダブル-X 平行開瞼器は、特許を取得した調節機構を搭載し、その利点に着目する術者が増加するのと同じペースで市場に広まりつつあります。屈折矯正術の際にしばしば問題になる、術野からの過剰な液体の排出が出来るよう、この吸引付の新タイプを新たに加えました。閉塞の危険性が極力少なく効果的な吸引が可能のように、ブレードには複数の吸引ポートが設置されています。シリコンチューブ、Y字コネクタ、ルアーコネクタが付属しています。



K1-5690 ダブル-X 平行開瞼器、K-ワイヤーブレード (小)



ダブル-X 平行開瞼器のシリーズに、小児や眼裂狭小の患者への使用に適した10mmブレード (従来のK1-5691は15mmブレード) が加わります。

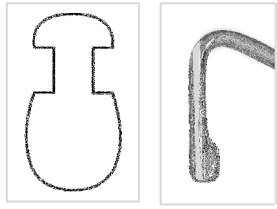
K3-2542 Smile スパーテル、D-E



SMILE (Small Incision Lenticular Extraction / レーザーを用いた小切開角膜矯正術) は従来のLASIK等に替わって受け入れられつつあります。SMILEの術中でレーザーは侵襲性を最小限に抑えた正確な角膜切開口の作成などに使用されます。事前の確実な計算や丁寧な角膜片の除去があ

って初めて角膜屈折力は正しく変換されます。SMILEはLASIKで合併症を引き起こす原因となりうるフラップの作成をすることなく異なるレベルの近視矯正を可能にします。一方は円錐状の先端をした3mm長のシンスキーフック、もう一方は1mm幅の円盤状の先端をした急角度のアーチ状スパーテルです。術者はこの一部改変されたシンスキーフックで切開部を開き、角膜にトンネル状の切開口を作成します。一度切開口を作成すれば、側面に角度のついた円盤状の先端でまず角膜片の上を、次に角膜片の下に角膜曲率に沿って切断します。ラメラ層の除去には、K5-7550 掌握鑷子をおすすめします。

K3-6830 リュワルスキ氏斜視鉤



斜視治療手術の際に眼筋が非常に強い場合、分離や接続部の解放が非常に困難な場合があります。UEA、アブダビのクリーブランド クリニックのポール・リュワルスキ氏がデザインしたこの斜視鉤は、先端部の両側に溝があり、強膜を傷つけるリスクを抑えつつ、この溝を通して針や糸を容易に通過させることができます。



K3-7906 水準器付アラインメントマーカー

トーリック IOL は白内障手術の際、潜在的な乱視の矯正術として一般的になりました。IOL の正確な設置を確実にするために、患者が直立している状態の垂直及び水平の正しいマーキングが不可欠です。マーキングする際の微小な手の角度の違いですら、甚大な差異の原因になることがあります。このような事態を防ぐため、カティーナは“バブル・レベル（水準器）”機構を搭載したアラインメントマーカーを作成しました。



によって患者の角膜上に正確なマーキングが可能です。半回転するリングと3/6/9時方向にマーキングする3mm長のブレード（10mm I.D. から13mm O.D.）作成されたマーキングは K3-7904 ヘンダーソン角度ゲージの内円部の目盛に一致します。



K4-4200 カティーナ マイクロ結紮剪刃



手術中の結紮は多くの術者にとって看護師の手助けが必要になる工程です。この剪刃は助手の手助けなく結

紮と縫合糸（10-0もしくは11-0）切断ができるようデザインされました。ゆるく湾曲した2mm長の結紮台があり、微細な縫合糸を切断するよう後ろに向かっています。持針器としての使用ではなく、結紮のみを目的としています



K3-1105 スコセッシン-シェパード氏 後囊研磨用鋭匙、15mm径



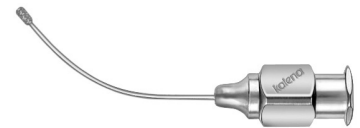
アルゼンチン、ブエノスアイレスのサルバドル大学のダニエル・スコセッシン氏と共同開発したこの製品は、従来のシェパード氏後囊研磨具を一部作り変えたものです。先端部は 90° に設置され、まず前房と後囊の右側を容易に研磨できます。その後一度眼内から外し先端部を裏返し再度設置することで引き続き左側も研磨できます。直径 1.5mm の先端は小切開術の使用が可能です。

K7-4892 ドゥバイル氏 囊研磨鋭匙、2サイトポート

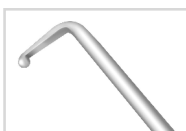


グルジア、ティビリシ医科大学のメラブ・ドゥバイル氏は、直径 1.25mm の円盤状先端部に 2 か所ポートを設置した灌流囊研磨具を開発しました。この形状により囊内の余分な物質を容易に除去することができます。後囊用の灌流孔がないため、研磨中より後囊表面に近付けて使用できます。ドゥバイル氏は、前房内の皮質の除去は初期の後囊混濁 (posterior capsule opacification/PCO) を

引き起す可能性もあると述べており、その観点からこのカニューラは前面部の表面を滑らかなサテン加工で仕上げました。



K3-2330 永原-アニス氏 チョッパー/核操作具 D-E

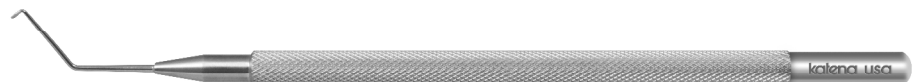
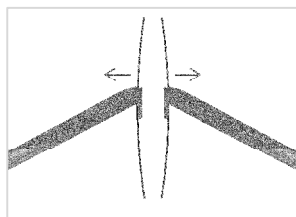


一方が核分割の為の永原氏フェイコチョッパー (K3-2329)、もう一方が破砕片をフェイコチップへと寄せるアニス氏核分割具 (K3-2427) になった操作具です。両方とも左右の違いがないので、右利き/左利きどちらの術者でも使用が可能です。



K3-2448 バグウェイ氏 Femto スパーテル (右)

K3-2449 同、(左)



フェムトセカンドレーザーの使用が広まりつつあります。レーザーは非常に正確で、囊切開のような手作業を単純化出来るだけでなく、他の手順に向けた新製品も多く発表されています。その一つが完璧な核破砕です。レーザーは核分割を容易にするためのパターンの作成に理想的ではありますが、レーザーでの後囊脱落を最小限にするため囊へ近接するのには使用されていません。エジブ

ト、カイロのタレク - バダウェイ氏は下方向への分割を完璧にするため、両手での核分割作業の為にこのセットを考案しました。非常に薄い 80° 下向きのパドル状先端部はレーザーで作成した溝に容易に滑り込ませることができます。これらのスパーテルは弱ったチン小帯の場合に大変重要になる同一のテンションを必要とする場合でも一緒に使う事が出来ます。それぞれのスパーテルを完璧な核分割の為にフェイコプローブと組み合わせて使用することも出来ます。バダウェイ氏はこの 2 本のスパーテルは全てのフェムトの使用に理想的で、硬質/軟質どちらの核にも等しく効果的だと述べています。

K3-2332 アニス氏フェイコチョッパー, 右
K3-2333 同, 左



この 2 つのチョッパーは核を水平に分割し、後嚢部を極力保護しながら組織片をマニピュレートしたい術者に理想的なチョイスです。核を分割する為のゆるく下向きの接続部と、直径 0.5mm、オリーブ型の先端部が後嚢部へのダメージから極力保護します。25° のシャフトとゆるく下向きの接続部の組み合わせは可視性がよく、各分割時の手への負担を軽減します。

右手用と左手用の 2 種類をご用意しました。

K3-2140 カティーナ虹彩チョッパー
2mm 幅 x 8mm 長、0.2mm 厚の虹彩チョッパーです。



K3-2343 ミルダー氏フェイコスパーテル

下向き 60°、水平及び垂直用スパーテルです。



K7-3210 シリコンオイル 注入カニューラ
7mm長、23Gのシリコンオイル注入用カニューラです。

